

平成30年度 北海道小学校長会  
第2回理事研修会  
会長挨拶 2018.7.2



本日は、修学旅行をはじめ、校外学習や行事等でご多用の中、このように、遠路お集まりいただき、心から感謝申し上げます。

私の方から教育情勢について、3点お話しする。

1点目は、6月22日に行われた全国連合小学校長会常任理事会についての報告である。

まず、児童生徒の学習評価の在り方に関する意見表明についてである。中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会の下に、「児童生徒の学習評価に関するワーキンググループ」を設置し、新しい学習指導要領の下での児童生徒の学習評価の在り方について審議を行っている。

その目的と検討事項について、全連小は会長名で、「児童生徒の学習評価の在り方に関する意見」(案)を作成した。項目については、1. 学習評価の在り方について、2. 観点別評価の充実を図るために、3. 教員の勤務負担に配慮した学習評価、4. その他となっている。内容については、現場の実態を十分反映した意見となっている。

次に、7月9日に予定されている全国連合小学校長会の「小学校教育の充実に関する文教施策並びに予算についての要望書」の提出についてである。全国のブロック代表の会長も提出に同行することになっている。この内容については、現時点では案の段階で、まだ正式には公表していないが、「教育費の増額措置について」「子どもと向き合う時間を確保するための教員の定数改善や人的措置、諸条件の整備について」「学校の教育活動が円滑に行われるようにするための、施設・設備・教材等の整備・拡充について」など9項目に渡っている。なお、8番目には昨年に引き続き「教育の機会均等を保障するために、へき地・小規模校の教育をさらに充実させる施策を講じられたい」という項目があった。へき地・小規模校の多い北海道にとっては、大切な要望となる。正式な要望書については、後日機会をとらえて皆さんにご紹介する。

2点目は、6月23日に東京で行われた日本教育会総会の中での合同

研修会における文部科学省 小松親次郎文部科学審議官 からの行政説明についてである。道小からは、会長の私と大石事務局長が出席した。

小松審議官からは、大きく3つのことについて説明があった。一つ目は、新学習指導要領についてである。

「今後の学習指導要領改訂に関するスケジュール」では、幼稚園には移行期間が設けられず、小学校・中学校・高等学校には移行期間が設けられている理由について説明があった。

これからの教育課程の理念〈社会に開かれた教育課程〉の「これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。」については、円周率を例にして説明していた。円周率を状況によって3くらいと考えたり、3.14としたり、 $\pi$ としたりするなど、内容や活用方法を通じて社会とどう関わるか、そして、求められる資質・能力をどう身に付けていくかなどを考えていくことの必要性に触れていた。

教科等横断的な学習の例として、中学校では、保健体育、家庭科、理科の学習で用いる元素記号を教師間での共通理解のもとで扱い、効果的に位置付けていくことなどもできると述べていた。また、言語能力の習得・活用・探究のバランスの工夫について、東大合格を目標に開発しているロボット（通称「東ロボくん」）を例にあげ、東ロボくんの弱点は意味を理解すること、読解力であることから、AIが社会に普及しても、読解力を基盤とするコミュニケーション能力や人間らしい柔軟な判断力を身に付けることが大切であるといった話もされた。

プログラミング教育の在り方や円滑な実施に向けた工程、手引についての説明の中で、小松審議官は、「キーボードになじむのはいいが、それがやってほしいことではない。プログラマー教育ではない。」と述べていた。

小学校及び特別支援学校学習指導要領等の解説動画を作成、公開したので、ぜひ視聴してほしいとPRしていた。

二つ目は、「『次世代の学校・地域』創生プランの実現に向けて」についてである。「教員をバックアップする多様なスタッフ」は、チーム学校の一員であるが、全体を見る担任の立場と一人を見るスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等との共通理解を図っていくことが重要であると述べていた。

三つ目は、Society5.0（ソサエティ 5.0）についてである。6月5日に出された「Society5.0に向けた人財育成」の概要については、講演時間も残りわずかで、小松審議官は、「公正に個別最適化された学び」を実現する多様な学習の機会と場の提供について簡単に述べていた。私たちも、今後の動きを注視していきたいものである。

3点目は、全連小北海道大会についてである。前回の理事研修会、分科会運営者研修会の後に第1回目の大会実行委員会を、6月8日に第2回目を行い、そして、本日、分科会運営者研修会後に3回目の大会実行委員会を行う。取組の内容については、本日の理事研修会の中で白幡大会実行委員会総務部長より報告がある。大会の成功に向け、参加される校長先生はもちろんであるが、北海道全ての校長先生方のご協力をお願いします。中でも、「分科会の充実」に向け、グループ討議については、全てのグループでの司会を北海道の校長先生に担当していただくので、各地区の参会者の皆様にその旨をお知らせ願いたい。

本日の理事研修会の講話では、

○北海道立教育研究所の竹内結美研究主幹から  
「プログラミング教育について」

○北海道教育委員会教育政策課の今村隆之主幹から  
「北海道みんなの日について」  
のお話をお聞きする。

本日は、どうぞよろしくをお願いします。